



令和 4年 12月 1日 発行
KKR札幌医療センター
〒062-0931
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
電話 (011) 822-1811
<http://www.kkr-smc.com>

(2022-9号)

理 念

“病院は人”のところで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧(あんねい)につくします

基本方針

1. “生活の質”向上に重きをおく医療を心がけます
2. 安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3. 患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4. 医療の情報を進んで開示します
5. 地域に信頼される医療を目指します

12月(師走)のこよみ

12月22日(木)	冬至
12月25日(日)	クリスマス
12月31日(土)	大晦日



気管支鏡検査とは

呼吸器センター長 品川 尚文

長引く咳や痰の原因を調べるために撮影した胸部X線やCT、あるいは健康診断で肺に異常な陰影を認めた際に、実際どういった異常がおきているのか検査をするため、カメラの検査(気管支鏡といいます)を勧められることがあります。気管支鏡は上部消化管内視鏡(胃カメラ)を細くしたような内視鏡で、口や鼻から気管・気管支へと挿入します。通常は喉(のど)や気道にスプレーのような道具で粘膜の麻酔をかけてから気管支鏡を挿入します。細胞の採取を行うなど検査時間が長くなる場合には、このほかに痛みを抑える薬や眠たくなる薬を注射で使うことがあります。

気管支鏡検査は外来で行うこともありますが、当院では基本的に入院で行っています。主な合併症に、出血、気胸(肺に穴があいてしぼんでしまう状態のこと)、発熱などがあり、一晩くらいは入院で経過を見た方が安全性は高いと考えていることが理由の1つです。

検査を行う目的として、異常な部分の細胞を一部つまんで採取する「生検」を行うことがあります。ただ、肺の奥深いところに異常な部分があると、その部分に到達する気管支はそこに至るまでに分岐を繰り返してとても細い構造になっており、気管支鏡は直接そこまでは挿入できないことがあります。こうした場合はX線の画面をみながら生検をするのですが、異常な部分の大きさが2cm以下の場合、正確に病変から組織を取れる確率は3割程度と言われています。当院ではこの数字を上げるために新しい技術を積極的に導入し、小さい異常な部分に対しても診断できる確率は7-8割になっています。10割にはまだ至らない状況ではありますが、他の検査方法(例えば、全身麻酔で手術をして肺の一部を切る、など)よりも体の負担が少ないこともあり、可能であればまずは気管支鏡をお勧めして検査させていただくことが多いです。

気管支鏡検査を勧められたら、不安に思っていることは遠慮無く主治医に相談してください。

当院は「敷地内全面禁煙」となっております

薬の医療安全について

薬剤科主任 高瀬 雅司

入院時の患者さんの薬の取り扱いについて

患者さんが入院される際には今まで自宅で飲んでいた薬を病院に持ってきていただくようお願いしています。これを病院では「持参薬」と呼んでいます。持参薬が無い場合、薬によっては同じ薬がない場合やすぐに調達できないことも考えられます。病院にご自宅で飲んでいた薬を持ってきていただくことにより、患者さんは今まで飲みなれた薬を入院しても飲み続けることができます。また「持参薬」やお薬手帳からは患者さんのいろいろな情報を得ることができます。入院に際しては、患者さんの薬の内容や、内服している薬の量、服用方法などについて確認しています。入院中の薬の管理についても自宅での薬の管理状況を知ることによって入院時の状態に合わせて病棟で薬をお預かりし看護師が配薬したり、患者さん自身で薬を管理してもらったりします。その一方で検査や治療によっては薬の影響が強く関係し、休薬が必要になる場合もあります。現在は同じ効果を持つ薬である後発薬品が何種類も出回っており、慎重に薬の確認をすることが重要になっています。

これらのことから患者さんにもお願いがあります。

お薬手帳は持っていますか？ 調剤薬局で薬をもらう時には薬の内容をラベルにして貼ってください。時々、調剤薬局毎や医療機関毎に手帳を分けられたり、同じ薬だからと毎回は貼らないという方がおられますが、お薬手帳は1冊にまとめ、毎回貼ってもらうのが良いのです。その手帳を見ることでどのような間隔で薬をもらっているか、どのような医療機関でもらっているかがわかり、相互作用や同じような成分の薬が重なっていたりすることがチェック出来るからです。病院では入院された時などに、現在服用している薬を教えてくださいと聞かれると思います。薬剤師は現在服用中の薬の内容、(健康食品、サプリメントも含む)や、毎日忘れずに服用しているか、以前に副作用(薬を飲んで湿疹が出たことがあるなど)の経験をしたことはないか、など確認しています。他の病院でもらって飲んでいる薬もすべてチェックしますので、お薬手帳が大変役立ちます。入院される時は必ずお持ちください。(今はスマートフォンで薬を管理するお薬手帳アプリもあるようです)そして、患者さんには自分の薬に是非関心をもってもらいたいと思います。これは何の薬かな?何で食前に飲むのかな?など疑問がわいたら是非近くの薬剤師に声をかけて下さい。薬に関心を持つことから患者さんにも「薬の医療安全」に参加していただけたらと思います。

